

テーマ

スーパー狩野川台風の襲来 その時あなたは！

狩野川台風の規模を上回る「スーパー狩野川台風」の襲来を想定し、“台風接近”、“台風上陸”、“狩野川の水位上昇”の3つのステージにおける映像を觀賞しながら、防災情報の収集や避難行動、地域連携をテーマに、住民の皆さまがどのように対応を取るべきかについて、パネリストによる意見交換や会場参加者から防災上の問題点等を述べていただき、参加いただいた皆さまで防災や避難行動について考え、理解を深める「会場参加型パネルディスカッション」を実施しました。



会場参加型パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションで想定する3つのステージ

- ステージ1** スーパー狩野川台風が発生し、伊豆半島に接近したことを想定し、災害リスクに関する情報収集について考えました。
- ステージ2** スーパー狩野川台風が伊豆半島に上陸したことを想定し、地域の方々一人一人の避難行動について考えました。
- ステージ3** スーパー狩野川台風が伊豆の国市を横断していることを想定し、地域でできる取組みについて考えました。

コーディネーター

静岡新聞
森下 俊一 編集部 部長



パネリスト

名城大学
柄谷 友香 教授



沼津市自治会連合会
榎原 昭雄 会長



国土交通省
沼津河川国道事務所
梅村 幸一郎 所長



ステージ1. スーパー狩野川台風接近(災害リスクに係る情報収集)

スーパー狩野川台風が発生し、伊豆半島へ接近している映像を会場参加者にご覧いただき、災害時の情報収集について考えました。

ステージ1におけるディスカッション内容

◆会場参加者への問いかけ

これまでに台風が接近した時みなさんは防災情報を収集されていますか？

◆会場参加者からの回答状況

- ・「収集している」と回答した方が多かった。
- ・会場からは、「テレビ、インターネットのウェザーニュースから台風の進み方などの情報を得ている」という発言があった。

◆パネリストからのコメント

国土交通省 沼津河川国道事務所 梅村 幸一郎 所長

- ・まずはテレビ、ラジオで天気予報、気象警報・注意報、台風の進路に関する情報を得る。
- ・気象庁や沼津河川国道のホームページ、ウェザーニュース、気象アプリ、防災アプリから降雨量、狩野川の水位、ライブカメラ映像から狩野川の状況等の情報を入手することが可能である。

沼津市自治会連合会 榊原 昭雄 会長

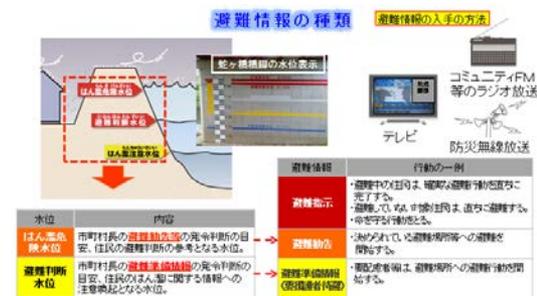
- ・防災情報の収集方法として、パソコンやスマートフォンが主流になっているが、高齢者はパソコンやスマートフォンを持っていないかったり、覚えることが難しいなどの理由から情報の入手は困難である。
- ・携帯電話の登録メールやテレビ・ラジオからの情報提供が強化されることも重要である。
- ・沼津市では防災ラジオが有償配付されているが、任意のため持っていない人も多い。
- ・また、大雨の時には屋外のスピーカーの音がかき消されてしまい、聞こえない場合がある。

名城大学 柄谷 友香 教授

- ・災害情報は、雨量や河川水位等の時事刻々と情報内容が変化する“動的情報”と地域の危険な箇所等に関する“静的情報”の2種類に分類される。
- ・平成21年9月に兵庫県佐用町では、住民が動的情報を見て、避難したのにも関わらず、用水路に流されてしまったという事例がある。
- ・そのため、動的情報と静的情報を合わせて把握しておくことが重要である。



ステージ1で観賞した台風が伊豆半島へ接近する様子の映像



河川水位と避難情報の関係性



静的情報と動的情報の分類

ステージ2. スーパー狩野川台風が伊豆半島に上陸(避難行動【自助】)

スーパー狩野川台風が伊豆半島に上陸する映像をご覧ください、避難行動について考えました。

ステージ2におけるディスカッションの内容

◆会場参加者への問いかけ

“避難勧告”が発令されたことをきっかけとして、みなさんは避難されるでしょうか？

◆会場参加者からの回答状況

- ・「避難する」と回答した方はほとんどいなかった。
- ・会場からは、「避難勧告が昼か夜かによって避難開始するか否かが決まる。夜は絶対避難してはならない。昼は急いで避難するべき。個人の判断により、自治体や気象庁等による情報が発令されたとき、直ちに避難行動をとるのが賢明と思う」、「足腰等が不自由なことを考えると、避難は無理であると思うことがある。」という発言があった。

◆パネリストからのコメント

国土交通省 沼津河川国道事務所 梅村 幸一郎 所長

- ・避難情報は“避難準備情報”、“避難勧告”、“避難指示”の3種類があり、これらの情報は市長・町長から発令される。
- ・避難情報は河川の水位と連動している。
- ・“避難勧告”のときには避難をし始める、“避難指示”が出たら確実にすぐさま避難をすることが重要である。

沼津市自治会連合会 榊原 昭雄 会長

- ・狩野川台風のような大規模な水害を経験した住民は年々少なくなっているのが実情であり、安心感が生まれたからかもしれないが、特に高齢者の方に避難しない方が多いように感じる。一方で、避難ができない方もいるという問題もある。
- ・市長、町長の方には、避難が必要な状況が夜間もしくは早朝である場合は、避難勧告の発令を避けてほしい。
- ・また、実際に避難ができるよう訓練をすることも重要であるため、水防訓練をバランス良く実施していくことが必要であると思う。
- ・水害に対する避難の意識向上が必要であるため、今回のシンポジウムのような機会を継続的に実施することが重要である。

名城大学 柄谷 友香 教授

- ・台風は先を読み避難情報を出せるが、水害の起こり方によっては避難勧告発令等、首長は難しい判断を迫られることもある。
- ・2009年に三重県尾鷲市では、台風襲来の18時間前から35名が福祉避難所に避難していた事例がある。
- ・地元のリーダーにいち早く連絡して、リーダーが率先して逃げる様子を見せることが避難完了に大きく影響する。
- ・遠くの避難所への避難より、近くの頑丈な建物の上階に避難した方が良い場合もあるため、状況に応じて避難方法を自分で判断できるようになることも重要である。



ステージ2で観賞した特別警報、土砂災害警戒情報発令の映像

ステージ3. スーパー狩野川台風による河川水位上昇(避難誘導、救出・救護【共助】)

スーパー狩野川台風により河川の水位が上昇するなど、流域内にも台風による影響が出始めている映像をご覧ください、地域で行われる災害対応について考えました。

ステージ3におけるディスカッションの内容

◆会場参加者への問いかけ

(一人での避難が難しい高齢者、障害者、乳幼児など)がいるお宅を知っていますか？

◆会場参加者からの回答状況

「知っている」と回答した方は少なかった。

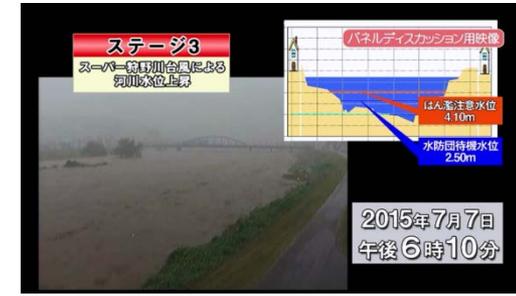
◆パネリストからのコメント

沼津市自治会連合会 榊原 昭雄 会長

- ・災害対策基本法改正により、市町村は避難行動要支援者名簿作成を義務付けられた。沼津市では民生委員と自治会が一緒になり名簿を作成している。名簿の登記は希望者のみのため、名簿に登録されていない方々への対応が今後の課題であると考えている。
- ・住民は水害への安心感があるかもしれないが、黄瀬川の異常な水位上昇には洪水への危機感をもつこともある。
- ・行政にも限界があると思うので、行政に頼るだけでなく、地域として水害に対する防災意識を高め、いざというときに地域が一体となって対応できるような地域づくりが重要と感じている。

名城大学 柄谷 友香 教授

- ・避難行動要支援者の名簿作成は、地域の実情等により作成が難しい場合がある。
- ・東日本大震災後の避難所を見て気付いたことが3点ある。
 1. 行政の管理の行き届かない避難所が多い。自主防災組織がカギ開け、運営等を行っていた。
 2. 一般避難所から福祉避難所への移動は自治会長のみの判断では難しい。保健師等との連携が必要がある。
 3. 障害や自閉症などの子供を持つ親御さんが安心して避難できる場所、地域との連携等が必要である。



ステージ3で観賞した狩野川本川が水位上昇する様子の映像

◆会場参加者への問いかけ

地域の消防団や水防団が実施する“水防活動”とはどのような活動をするか知っていますか？

◆会場参加者からの回答状況

「知っている」と回答した方は少なかった。

◆パネリストからのコメント

国土交通省沼津河川国道事務所 梅村幸一郎 所長

- ・水防団は、普段は水防とは関係のない仕事をされている方が集まって組織されている。
- ・水防団は、堤防の点検や洪水時に決壊しそうな箇所には水防工法を施すなどの作業を行う、
- ・水防訓練は毎年、伊豆の国市、函南町等の狩野川流域、を対象に実施しているので、地域の皆さまに参加して頂きたい。

まとめ

最後に、パネリスト及びコーディネーターより、今回のパネルディスカッション全体を通して感じたことや、「地域でつくる水害に強い狩野川」に向けた意見等のコメントを頂きました。

パネリスト及びコーディネーターによるコメントの内容

◆パネリストからのコメント

名城大学 柄谷 友香 教授

- ・避難意識や地域防災力の向上を図るためには、今回のシンポジウムのように、これまでに放水路に関わりを持った人の紹介や小学生による防災教育の発表等の取り組みを行うことが重要であると思う。
- ・災害が発生したら時事刻々と状況がどのようになるか、各自イメージできるようになることが重要である。イメージができるようになれば、半歩先、一歩先の行動につながると思う。
- ・住民には、狩野川台風に関する過去の資料や先人の経験を、地域防災力の向上や災害状況をイメージする力の向上に活かしてほしい。

沼津市自治会連合会 榊原 昭雄 会長

- ・狩野川台風が発生した時、私は中学3年生であった。当時は御成橋と永代橋の近くに住んでおり、その時の狩野川の様子、瓦礫が永代橋に挟まっている状況、住民が息絶えている様子が、今でも目に焼き付いている。
- ・災害経験が少ない住民の避難意識を向上させるために、今回のようなシンポジウムを継続的に行うことができれば、住民側としてもありがたいと思う。

国土交通省 沼津河川国道事務所 梅村 幸一郎 所長

- ・テレビやスマートフォンから情報を得て、「帰宅する時間帯にすごく雨が降りそう」など、情報を得た後の状況や行動を具体的に想像する“防災イメージーション”が重要である。
- ・狩野川沿いの様子を見て、「雨がこれだけ降ると河川の水位がこれだけ上がるのか」などの気付きが“防災イメージーション”の土台となる。
- ・狩野川放水路完成以降、狩野川流域では水害による死者、行方不明者がゼロである。引き続き、狩野川流域での水害による死者、行方不明者ゼロを目指していきたい。

◆コーディネーターからのコメント

静岡新聞 森下 俊一 編集部 部長

- ・台風は発生しないのが一番であるが、想像できないような雨が降る世の中となっており、今回想定したような台風が発生しないとは言い切れない状況にある。
- ・今回のシンポジウムが住民の防災意識を高めるきっかけとなればと願っている。



パネルディスカッションまとめの様子